

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

住吉高校の伝統と実績の上に立ち、国際科学高校として、21世紀のグローバル時代をリードし、世界に貢献する人を育てる学校づくりを進める。その実現へ向けて、生徒の個を大切に、府のパイロットスクールとして新しいことに積極的にチャレンジする学校、生徒や保護者、府民のニーズや期待に応える学校となることをめざす。

基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力をつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。

「チーム住吉」で教職員が一丸となって、国際交流や行事、生活指導を行い、「自由・自主・自律」を体現する生徒を育てる。

世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

2 中期的目標

グローバル時代をリードし世界に貢献する人を育てるため、生徒につけたい力を定めその実現へ向けた取組みを行い、下記の中期的目標を達成する。

【「5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)」】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた視野の広さ
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と鋭い人権感覚
- 3 理念のみならず、行動に移せる実行力とバランス感覚
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 科学に対する真摯さと謙虚さ

1. 学力向上と進路実現

国際科学高校改編 14 年目を迎え、国のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) (再指定 2018～2022) や大阪府の「『骨太の英語力』養成事業」(H29 事業終了) 等の意義を踏まえ、教職員の資質向上と組織的な教育活動により、生徒の学力向上及び希望進路の実現を図る。

(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成

- ア すべての教科で「つけたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を学校全体で共有し評価する。
- イ 新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム」の策定 (2020 完成)
- ウ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
アクティブ・ラーニング (探究型、双方向型、課題解決型) をめざし、「住吉 AL モデル」を開発する。
各教室への ICT 機器の整備 (H31～)
- エ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。(H29～)
生徒の希望する進路の実現率 85%以上(2021～)、国公立大学合格者 100 名以上(2021～)

2. 国際科学高校としての質的な深化

(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合

- ア 文理融合カリキュラムの実施 スーパーサイエンスクラスの充実 (H30～)
- イ ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上

(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成

- ア 授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上 各英語コミュニケーション能力測定テストの目標値の達成 (2021～)

(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実

- ア SSHの取組みの柱 課題研究の質の向上 国際共同研究 小中高大・産学連携 を確立する。
- イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。

学校教育自己診断 (生徒用)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」「科学関連、国際理解などの外部講師の話はためになった」
90%以上維持 (H31～)

(4) 国際交流、海外研修、自治会等 行事の見直しによる質の充実

各行事や取組の生徒満足度 90%以上 (H31～)

3. 世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

(1) 人権を尊重する意識の向上

総合的な学習の時間や人権 HR のさらなる充実、きめ細かな相談支援体制の確立
学校教育自己診断「人権について学ぶ機会」90%以上 (H31～)

(2) マナー・規範意識等の育成

挨拶・清掃・遅刻指導の徹底、遅刻数は年間 2000 を下回ること (H31～)

(3) 生徒の自主的な活動の充実

自治会活動、部活動のさらなる充実、新入生部活動加入率 90% (H31～)

4. 「チーム住吉」の確立による新しい課題への挑戦 (支え合い高め合う組織の実現)

(1) SIC (住吉改革委員会) に 学習指導 PT 新カリキュラム検討委員会 ICT 推進 PT を置く

「住吉 AL モデル」と評価法の開発 「カリキュラム」の策定 授業での ICT 活用及び校務の ICT 化の促進

(2) SSH 推進体制に、卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実を図る 全校体制化のさらなる推進 (H30～)

(3) 地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化 広報活動の充実 (H29～)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>教育活動 「学校生活が充実している(生徒 91%、保護者 89%)」、「住吉高校に入学してよかった(生徒 92%、保護者 93%)」、「他の学校にない特色がある(生徒 96%、保護者 94%)」、「実験合宿や英語合宿、スタディツアーはためになっている(生徒 95%、保護者 96%)」と高い評価を得た。 昨年の授業についての生徒肯定的評価が 84%であったが本年度は、「授業はわかりやすい(生徒 80%)」、また、評価についても昨年の生徒肯定的評価 91%が、「学習の評価は納得できる(生徒 89%)」と若干減少したが高い評価であった。 校内相互授業見学、公開授業、また阪南中学校との相互授業見学・研究協議など授業力の向上に努めたが、さらなる向上がめざしたい。 創立 100 周年事業のうち、先行事業として 8 月に全教室に電子黒板を設置した。授業での活用が増え、ICT 機器が良く活用されている(生徒 92%)と肯定的意見が多かった。</p> <p>学校生活 「困っていることには真剣に対応してくれる」は 90%から 87%、「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」が 83%から 77%であった。取組みに変化はないが若干減少した。 「学校生活の指導は適切である(生徒 80%、保護者 86%)」であり、今後も適切な指導に努めたい。 人権、命について学ぶ機会について、生徒 95%、92%、保護者 92%、85%。ともに 85%を超える肯定的意見があった。</p> <p>その他 「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる(生徒 66%、保護者 56%)」とたいへん低い。老朽化、設備の維持管理が課題である。 自然災害や交通機関の乱れ等への対応の周知について保護者の肯定的評価が 68%から 76%と向上した。</p>	<p>第 1 回(6/25) 遅刻は減ってきているようだが、どのような取り組みを行ったのか。スマートフォンの使い過ぎで起きられない生徒はいないのか。規定回数を超えた者について早朝登校などの指導をしている。生徒自らが原因や改善策を考えるよう指導している。 メンタルで悩んでいる生徒に対する指導援助はあるのか。教育相談委員会が情報共有および支援を行っている。 自転車による通学範囲は。遠いところでは堺北部くらいか、通学距離の規定はない。 始業間際に焦って登校すれば事故につながるのではないか。校門での様子は急いできている生徒はほとんど見かけない。 事故を起こせば責任を取らねばならない。丁寧に教えることが必要である。 上町線の車内でも勉強を頑張っている姿を見るが、降車後電車の前を横切る生徒もいる、注意が必要。 ICT および AL についてスキルを付ける術は。若手教員は ICT の活用方法を学んでいる。その技術を見学等により共有している。 SSH と国際という住吉の特徴をさらに生かしてほしい。 中学との連携は高校にとっても有効、中学は大変ありがたい。良い形で連携できている。</p> <p>第 2 回(10/31) 海外からの受け入れが減っているのはなぜか。隔年や数年おきのグループが重なった。次年度はすでに 3 グループが予定されている。 韓国研修は中止か。「状況は好転しない」と判断し中止とした。 高校から中学の何を観に行くのか。高校教員が中学の授業を観る機会は少ない。ICT を活用した授業は中学の方が進んでいる。授業改善につなげている。</p> <p>第 3 回(2/27) 英語合宿は中止か延期か。新型コロナウイルス感染防止の観点から中止。今後については検討する。 住高支援ネットワークはどのように英文添削をしているのか。科学発表会に用いる文章を卒業生(アメリカ在住)にメールにより添削指導していただいている。 ユネスコスクールでの発表はすばらしい。 科学英語については、専門性が細分化されている。文章そのものをしっかり指導できる方に常駐してもらうことが必要。高校生には難しいが、英語論文をたくさん読むこと。模倣しながら習得。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア.すべての教科で「つきたい力」「重点目標」「具体的目標」「具体的方策」を学校全体で共有し評価する。 イ.新学習指導要領や高大接続を見据えた「カリキュラム」の策定 ウ.主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進 エ.3年間を見通した進路指導を着実に実行する。	(1) ア.「学習指導 PT」を中心とし、授業改善を行う。 ・PT による経験の少ない教員の公開授業を推奨する。PT が中心となって経験の少ない教員への組織的支援体制を強化する。 併せて、業務の効率化を図る。 ・PTA 主催の教育産業による土曜講習を実施する。 イ.「新カリキュラム検討委員会」を中心に、新教育課程の教科調整、原案作成等を行なう。 ウ.「学習指導 PT」が主導し、「住吉 AL モデル」を構築する。 ・「ICT 推進 PT」が中心となり、「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を目標に ICT 機器等の活用を推進する。併せて、業務の効率化を図る。 エ.進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。 ・学年団ごとの自主的な講習でなく、進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。 ・模擬試験終了後、進路指導部と学年団が連携し、分析会を実施。生徒の情報を共有する。	(1) ア.公開授業、研究協議を年間 6 回以上実施 (H30:6 回) イ.新指導要領「カリキュラム」の原案完成 ウ.「住吉 AL モデル」を開発する。 ・教員の ICT 機器等の活用率 自己診断 95% (H30 91.3%) ・授業アンケート「生徒意識 2 知識や技能が身についた」の項目 3.3 以上 (H30 1回目 3.19 2回目 3.26) エ.1 年次 1 学期より系統的な進路ホームルームを実施。(年間 5 回以上) ・系統的な進学講習の開催 (放課後、長期休業期間合計 4 回) ・模擬試験の分析会を定期的に開催。(年間 3 回) ・国公立大学合格者 70 名以上。(H30 現役 57 名) ・センター試験受験者を 200 名以上 (H30 出願 222 名 受験 216 名)	・学習指導 PT の活動として、6 名計 9 回の公開授業を行った 中学校との相互授業見学も実施 () ・大枠作成済み。8 月にかけて修正 () ・AL を含め公開授業・研究協議 6 回 () ・ICT 機器等の活用率 95.2% 全教室 電子黒板設置完了 () ・1 回目 3.31 2 回目 3.31 () ・5 回 進路だより等による補完も行う ポートフォリオ継続 () ・3 年夏期講習 18 講座 633 名受講 2 年 5 教科 夏期・冬期講習実施 早朝・放課後講習 実施 () ・3 回 () ・国公立大学合格者 57 名 () ・センター試験 出願 211 名 受験 194 名 ()

府立住吉高等学校

<p>2 国際科学高校としての質的な深化</p>	<p>(1) 国際文化科と総合科学科のさらなる融合 ア.文理融合カリキュラムの実施 イ.ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上</p> <p>(2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア.授業や行事を通じた「使える英語力」のさらなる向上</p> <p>(3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実 ア SSH の取組の柱を確立 イ.ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4) 国際交流、海外研修、自治会等 行事の見直しによる質の充実</p>	<p>(1) ア・スーパーサイエンスクラスを充実させる。 イ・「SSH 推進会議」が SSH 課題研究、台湾の姉妹校との国際共同研究等に向けたルーブリックを策定する。 ・国際文化科、総合科学科の合同行事を深化させる。 併せて、業務の効率化を図る。</p> <p>(2) ア・暗誦、ディベート等の指導や SE(スーパーイングリッシュ)、SK(スーパーコリアン)等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。 イ・SSC(スーパーサイエンスクラス)において科学英語の学習を行う。 ウ・スピーキングテストの実施</p> <p>(3) ア・SSH の取組の柱 課題研究の質の向上 国際共同研究 小中高大・産学連携 を確立する。 イ・ESD を柱とした総合的な学習の時間、カンボジアへのアジアフィールドスタディ、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4)「行事の精選」を課題として、精選及び効果的な実施を確立する。併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) ア 学科、学年を越えたスーパーサイエンスクラスの充実 ・学校教育自己診断における「評価について納得できる(H29 87% H30 90.9%)」を90%以上維持する。 ・SSH 国際共同研究を両科で推進する。(H30 合同開催は、スタディーツアー、講演、各種研修旅行等)</p> <p>(2) ア・TOEFL 50 点以上 受講生の 15% (H30 80 点以上0名、60 点以上2名) ・TOEIC の平均スコア 500 点以上 (H30 392.5 点) ・GTEC の平均スコア 520 以上 (H30 平均スコア 498 点 平均点1年 489.7 点、2年 506.6 点 700 点以上1年0人、2年5人 最高点 786 点) ・英検 2級 1・2年 受験生の 25% 準2級 1・2年 受験生の 50%</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」「外部講師の話はためになった(科学関連、国際理解)」の項目を 90%以上維持する。(H30 92.6%、90.0%)</p> <p>(4) ・行事の精選 ・生徒の満足度 90%以上維持する。(H29 84% H30 93.1%)</p>	<p>・学習の評価は納得できる 89% () 昨年より2ポイント下がったが、高い評価であった。継続して改善する。</p> <p>・国際共同研究について姉妹校と調整 ()</p> <p>・TOEFL 感染症防止のため中止 ・TOEIC 感染症防止のため中止 1年 103 名受講 () ・GTEC () (R1よりスコア表示変更 平均点1年 858.9 全国平均 722 2年 880.4 全国平均 771 最高点1年 1232 満点 1280 2年 1159 満点 1280 A2.1 以上1年 99.6%、2年 98.5%) ・英検 2級 1・2年 受験生の 56% 準2級 1・2年 受験生の 78% ()</p> <p>・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」92% () ・「外部講師の話はためになった(科学関連、国際理解)」89% () 昨年よりわずかに下がったが、高い評価であった。講演内容については検討を続ける。</p> <p>・アジアフィールドスタディ再考中 () ・宿泊行事 95%、体育祭等 93% ()</p>
<p>3 豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1) 人権を尊重する意識の向上</p> <p>(2) マナー・規範意識等の育成</p> <p>(3) 生徒の自主的な活動の充実</p>	<p>(1)・人権教育推進委員会において、人権ホームルーム及び教員研修の一層の充実を図る。本名使用の指導、人権講演会を実施する。 ・支援カード の活用及び支援委員会によるきめこまかな生徒の支援体制の全校化を引き続き行う。 ・帰国渡日生を支援する GL(グローバル ライフ)委員会の活動を充実させる。</p> <p>(2) ・生活指導部中心に学年団との連携により、遅刻指導、自転車等のマナー指導、挨拶指導等の徹底を図る。 ・保健部中心に学年団と連携し、定期清掃、大掃除時の徹底を図る。</p> <p>(3)・自治会中心に生活指導部、学年団等と連携し、生徒が主体的に行う体育大会、学園祭等の行事やコンテスト等への参加を充実させる。 併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) 人権ホームルームの質のさらなる充実を図る。 ・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある。」90%以上維持する。(H29 87% H30 93.4%) ・教員研修を年間3回開催 (目的別実施含む。) ・学校教育自己診断「担任以外に相談できる先生」80%以上 (H29 65% H30 82.5%)</p> <p>(2)・遅刻指導の徹底、年間 2000 件以内 (H30 2517 件) ・清掃美化について HR 教室等、学習環境を美しく保つことをめざし、定期的にチェックする体制を整える。年間3回チェックを行う。</p> <p>(3)・学校教育自己診断「部活動に積極的に取り組んでいる」を 85% (H29 80% H30 90.1%) ・新入生部活動加入率を 90%</p>	<p>・「めぐみ」視聴実施 ()</p> <p>・「人権について学ぶ機会がある。」95% () ・教員研修 4 回実施 () 経験の少ない教員対象研修、部落問題支援教育、就職問題 ・「担任以外に相談できる先生」77% ()</p> <p>取組みに後退はないが、前年を下回った。継続して相談体制の充実を図る。 ・遅刻 2040 件 () 大きく減少したが目標に届かず。 ・毎月キャンペーン実施 ()</p> <p>・「部活動に積極的に取り組んでいる」91% ()</p> <p>新入生部活動加入率 97.9% (重複入部を含む) ()</p>

府立住吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4、「チーム住吉」の確立による新しい課題への挑戦</p>	<p>(1) SIC(住吉改革委員会)に 学習指導PT 新カリキュラム検討委員会 ICT推進PTを置く</p> <p>(2) SSH推進体制に、卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実を図る</p> <p>(3)地域、PTA、同窓会等と協働する学校づくりの推進及び広報活動体制の強化</p>	<p>(1) SIC(住吉改革委員会) 学習指導PT 新カリキュラム検討委員会 ICT推進PT 活動の推進「新カリキュラム検討委員会」を中心に、新教育課程の教科調整、原案作成等を行なう。</p> <p>(2)「推進会議」により、事業の企画立案や進捗管理等を行う。 「住高支援ネットワーク」の充実。課題研究や講演会の講師等の支援を受ける。 併せて、業務の効率化を図る。</p> <p>(3)・地元の2小学校、1中学校と「SSH 実験教室」の内容を充実させるとともに、特に中高の教員交流を推進する。</p> <p>・総務部中心に学年団と連携し、効果的な広報活動を展開する。 学校説明会・体験入学会やホームページ等を活用した広報活動の充実を図る。 併せて、業務の効率化を図る。</p>	<p>(1)PTによる研究、報告。 ・PT活動 10回</p> <p>(2) ・推進会議 10回 ・「住高支援ネットワーク」を課題研究に活用する。 メール、SNS等により、質疑応答、指導・助言等の支援</p> <p>(3) ・小学生対象の教室を年間1回、中学生対象の教室を年間3回実施する。(H30 上記同数) ・地元中学校との教員交流を年間2回以上実施し、本校のSSHで作成した教員マニュアルや教材等の普及を行う。 ・学校行事への PTA の参加者増をめざす。 ・学校説明会・体験入学会を年間3回開催する。(H30 3回) ・中学校および PTA へ連絡を取り、本校プレゼン等の要望に応える。</p>	<p>・学習PT 公開授業実施 新カリ委 大枠作成済み 8月にかけて修正 ICTPT 電子黒板導入、研修会 () ・SSH推進会議 17回(12月まで) () ・国際科学発表会 指導助言に参加 英語発表におけるポスター、プレゼン資料について米国在住OB協力 英語添削 ()</p> <p>・SSH実験教室 4回実施 ()</p> <p>・中学校との相互授業見学 4日間2回実施 ()</p> <p>・AED講習会・学校保健委員会 ()</p> <p>・学校説明会3回、体験入学1回 追加説明会2回 毎回定員超過 ()</p> <p>・学校案内送付 生徒・卒業生によるプレゼン ()</p>
---	--	---	---	--